

2026 年 8 月 25 日

プレスリリース「長野県縦断駅伝競走の刷新について」

～74 年の歴史を受け継ぎ、「信州の駅伝」をさらに熱くする大会へ～

長野県
長野県教育委員会
一般財団法人長野陸上競技協会
信濃毎日新聞社
公益財団法人信毎文化事業財団

平素より長野県縦断駅伝競走（以下、県縦断駅伝）に多大なるご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

1952（昭和 27）年の第 1 回大会以来、広大な県土をたすきでつなぎ、県民の心をつなげてきた県縦断駅伝は、本年 11 月に開催する第 75 回大会（東北信コース）をもちまして、長距離・東北信と中南信の 2 コースを隔年で使用する現行方式を終了します。2027 年の第 76 回大会からは中距離・固定コースへ移行し、安全で持続可能な、これまで以上に熱気に満ちた大会へ生まれ変わります。

■ 現行方式を終了する理由

現行方式を終了する最大の理由は、ランナーおよび運営スタッフの皆さまの命と安全を守るためです。東北信コース（長野市～諏訪市）と中南信コース（松本市～飯田市）はそれぞれ約 100km に及び、これらの長大な公道レースを安全に運営するためには、各地区の膨大な数の支援団体や、ボランティアの皆さまのお力添えが不可欠でした。しかし近年、高齢化や担い手不足により、これまで通りの人員を配置することが物理的に極めて困難な状況となっております。

万一、レース開催中に交通整理を担うスタッフに欠員が出た場合、脇道からコースに進入した車両が選手やスタッフと接触する重大事故につながる恐れがあり、大会を継続する上で大きな課題となっております。また、長時間の交通規制が地域の生活動線に与える負荷も年々増大しており、同様の課題を抱えた全国の多くの駅伝大会が近年、終了を余儀なくされています。

万全の安全管理が担保できないまま漫然と大会を続けることは許されません。一方で、全国高校駅伝の優勝メンバーや、オリンピック・世界大会の代表選手を数多く輩出し、信州の駅伝文化の土台となってきた公道レースの伝統を守り抜くことも重要なミッションです。こうした状況を踏まえ、主催者で協議の上、コースの最適化に踏み切りました。

■ 2027 年からの新生大会の姿：熱量を高め、より親しまれる大会へ

伝統を引き継ぐ新しい大会は単に規模を縮小するのではなく、運営リソースを集中させることで大会の密度を高め、駅伝ファンの熱気をさらに盛り上げるための進化を目指します。

1. 安全で白熱する中距離・固定コースへ

- ・ 松本城スタート～伊那市役所フィニッシュ（約 50km、全 8～10 区間）」の毎年固定コースへと刷新します。
- ・ 「15 郡市対抗」の枠組みは維持します。
- ・ 交通規制を午前中で完結させることで地域への負荷を大幅に減らすとともに、毎年同じコースで開催することで現場担当者の習熟度を高め、より強固で確実な安全管理態勢を構築します。

2. 競技性を維持しつつ、県民がより駅伝を楽しめる大会へ

フィニッシュ地点となる伊那市役所では、駅伝をより楽しめる関連イベントの開催を計画します。各チームと連携した「ご当地」アピールや、県民の皆さまがより地元チームを応援したくなる工夫を凝らします。

■ 新しい大会の名称を県民の皆さまから募集します

県縦断駅伝の伝統を引き継ぐ新しい大会を県民の皆さまと共に創り上げていきたいという思いから、新しい大会名称を公募します。募集の詳細は、後日改めて信濃毎日新聞紙面および大会公式ウェブサイトなどでお知らせいたします。

今年の第 75 回大会は現行コースでたすきをつなぐ最後の大会となります。74 年の長きにわたり紡いできた伝統に有終の美を飾るとともに、次代のアスリートたちが躍動する未来の舞台へ向けて、皆さまの変わらぬご声援とご支援を心よりお願い申し上げます。

■ 最後となる現行方式の大会実施について

日時：2026 年 11 月 15 日（日）午前 8 時 30 分スタート

コース：信濃毎日新聞長野本社前（長野市）～しんきん諏訪湖スタジアム

（諏訪市）14 区間 計 109.82 km ※2024 年大会と同じコースを予定

本件への問い合わせ

大会事務局（信濃毎日新聞事業部内）田中

Tel : 026-236-3366

Mail : yousuke@shinmai.co.jp

県縦断駅伝コース

27年



26年

